

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	聖隷放課後クラブはなえみ和合			
○保護者評価実施期間	2024年 9月 13日		～	2024年 9月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	45名	(回答者数)	36名
○従業者評価実施期間	2024年 9月 13日		～	2024年 9月 25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 12月 20日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている。また、生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境、子ども達の活動に合わせた空間となっている。	クラスの利用人数・活動プログラムに応じて、部屋を使い分けるとともに、視覚支援を用い心地よく過ごしやすいよう環境調整を行っている。	こどもの意見や様子を踏まえて、過ごしやすい空間作りや環境整備に取り組んでいく。
2	保護者への説明（事業所の取り組み等、放課後等デイサービス計画を示しながらの説明、こどもの共通理解、職員からの共感的な支援）をされている。	保護者への説明は、保護者座談会・行事・面談・送迎時等、様々な場面を設定している。	はなえみでの様子をご家族に知ってもらうために、保護者との連絡ツール（コドモン）を活用し日常的な発信をしている。
3	安全対策（個人情報の取扱い、非常災害時の訓練、安全の確保がされた上での支援）がなされている。	毎月実施している非常災害時の訓練の様子は、コドモンにて配信しご家族と共有している。また、個人情報の取り扱いに関しては同意書の項目の見直しを毎年行い、過不足について評価している。	災害、感染、防犯等、マニュアルに基づいた対応ができるように訓練や研修を継続するとともに、「安全教育」にてこどが自ら自身を守るスキル獲得に向けた取り組みを強化する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族が参加できる研修会や情報提供の機会、きょうだい同士の交流の機会が設けられていない。	外部での研修会の案内を玄関掲示するのみであった。きょうだい支援については、きょうだい支援の研修に職員が参加したのみとなった。	家族が参加できる研修会の案内は、施設内に掲示するとともにコドモンにて配信する。また、保護者が知りたいと思う情報を適宜発信できるよう努める。きょうだいを対象とした施設開放週間を設け、足を運んでもらえるような取り組みを行う。
2	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がない。	生活困窮事業の学習支援に参加している小学生以上のこどもとの交流について検討を重ねたが、実施には至らなかった。	かるみあ（児童発達支援センター）・こども園のこどもたち・和合せいれいの里内の高齢者・障害者との交流を計画し、さまざまな人との関わる機会を設けていく。
3	面談や子育てに関する助言等の支援の機会が少ない。	事業所として保護者に伝えたいことを伝える場面は多く設定していたが、保護者に寄り添い想いを受け止める力が弱く、助言等の支援が不足していた。	ご家族が参加できる研修会やはなえみでの日常について情報発信を行うとともに、学習や進路等よく聞かれるテーマを設定し、ともに考える機会を設けます。